

太陽電池と建築デザイン

# 融合へ産学で研究会

## 23日、都内で 設立シンポ 建材一体型の開発誘導

太陽電池と建築デザインを融合させる新技術の開発や普及に向けて「太陽エネルギーデザイン研究会」が発足する。大学や建築設計事務所、ゼネコン、建築設備会社などの関係者が発起人となり、23日に東京都内で設立シンポジウムを開く。伊澤岬日大理工学部社会交通工学科教授を会長とする設立準備委員会は、幅広い分野から企業、個人の会員を募る方針で、新たな自然エネルギー時代にふさわしい研究成果の発信を目指す。

研究会は、自由な建築デザインを融合させる新技術の開発や普及に向けて「太陽エネルギーデザイン研究会」が発足する。大学や建築設計事務所、ゼネコン、建築設備会社などの関係者が発起人となり、23日に東京都内で設立シンポジウムを開く。伊澤岬日大理工学部社会交通工学科教授を会長とする設立準備委員会は、幅広い分野から企業、個人の会員を募る方針で、新たな自然エネルギー時代にふさわしい研究成果の発信を目指す。

研究会は、自由な建築デザインを融合させる新技術の開発や普及に向けて「太陽エネルギーデザイン研究会」が発足する。大学や建築設計事務所、ゼネコン、建築設備会社などの関係者が発起人となり、23日に東京都内で設立シンポジウムを開く。伊澤岬日大理工学部社会交通工学科教授を会長とする設立準備委員会は、幅広い分野から企業、個人の会員を募る方針で、新たな自然エネルギー時代にふさわしい研究成果の発信を目指す。

設立準備委員会は伊澤岬日大理工学部社会交通工学科教授（発起人代表）をはじめ、松田平田設計、三菱地所設計、ネクスト・エム、大成建設、竹中工務店、大成設備、九電工の関係者らで構成。顧問を齋藤公男日大名誉教授（前日本建築学会会長）が務める。伊澤教授は「太陽電池の技術開発は急速に進んでいるが、都市インフラとどう融合させるかという観点からのアプローチがない。研究会ではさまざまな分野の方々に参加してもらい、広がり感を持ちながらいくつかのコアプロジェクトについて研究していきたい」と話している。

4時から東京・元赤坂の松田平田設計で開き、大野二郎氏（日本太陽エネルギー学会理事、日本設計環境創造マネジメントセンター長）と伊澤教授が講演する。定員50人、参加無料。申し込みは10日までにFAX（03・3403・7384）で問い合わせは事務局担当の貝守健司ネクスト・エム取締役（電子メール：em@next-n.co.jp）へ。

日刊 建設工業新聞

6/1 火曜日  
2010年(平成22年)